

## 木製農具

弥生時代は、水稻農耕の定着とともに各種の農具が普及していきました。これらの農具には、一昔前の道具と形がほとんど変わらないものもみられます。クワやスキは田畑を耕すために、大足（田下駄）はぬかるんだ場所での作業に、横槌はワラ打ちなどの作業に用いられました。



参考：朝日遺跡出土木製農具（重要文化財）

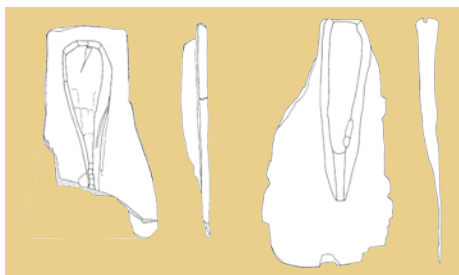
## 木の道具を作る

朝日遺跡では、クワの刃先、斧の柄、容器など、製作途中の木製品（未製品）が多く出土しています。このことから、集落に材料の木材を運び込み、木の道具を作る作業が行われていたことがわかります。



製作途中の鍬

クワの刃先ですが、まだ柄を通す孔が開けられていません。



## 愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

〒452-0932 清須市朝日貝塚1  
TEL.052-409-1467

開館時間／午前9時30分から午後4時まで  
休館日／月・火曜日（祝日を除く）

\*企画展期間中は開館日を変更しています。

## 交通案内

(株)東海交通事業城北線「尾張星の宮駅」から…徒歩10分  
名鉄名古屋本線「新清洲駅」から…徒歩30分  
JR東海道本線「清洲駅」から…徒歩35分  
名古屋第二環状自動車道「清洲東IC」から…車で約5分



# 朝日遺跡と木の道具



平成27年

10月17日[土] → 11月23日[月・祝日]

愛知県清洲貝殻山貝塚資料館

平成 24 年 9 月に重要文化財に指定された朝日遺跡出土品は、我が国を代表する弥生時代の考古資料です。このなかには、カシやケヤキなど木を材料とした製品 253 点が含まれています。その内容は、農具、工具、容器、祭祀具などきわめて多彩であり、弥生時代の生活のなかで木の道具がどのように用いられてきたのかをよく物語っています。

本企画展では、平成 26 年度に保存修理を終えた木製品を一般に公開するとともに、朝日遺跡から出土した木製品関連資料を展示し、弥生時代の木を用いた文化を紹介します。

## 木製品の保存修理

約 2000 年の間土の中にあった朝日遺跡の木製品は、出土時の形状を維持できるよう保存処理が施されています。しかし、処理から年月が経過しており、劣化した部分や破損した部分は今後の保存に支障を来す恐れがあることから、保存修理事業を継続して行っています。保存修理は次のような手順で進められます。



### X線撮影

資料の構造や保存状態を調べます。



### クリーニング

表面に浮き出た薬剤を除去します。



### 樹脂充填・復元

接合部や欠損部を樹脂で補填します。



### 補彩

樹脂で補った部分を彩色し目立たなくします。

平成26年度の保存修理は(株)東都文化財保存研究所に委託し行われました。

## 修理を終えた木製品 (重要文化財)



### ○杓子

(残存長：32.9cm)

食膳具。持ち手部分は大きく湾曲しています。



### ○斧柄

(長さ：42.2cm)

手斧の柄。先端の台座に斧の刃を取り付け、木材の加工に用いられました。



### ○楯

(残存長：79.2cm)

樹皮でつくられた楯の一部。紐で縫い付けるための小さな孔が確認できます。



### ○儀仗

(長さ：80.4cm・58.7cm)

武器などを模した祭祀に用いられる道具。本資料は石棒形木製品とされることもあります。